

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年7月18日（火）

2 確認箇所

プロセス主建屋南側遠隔操作室

3 確認項目

除染装置タンク内残スラッジの地下貯槽への移送

4 確認結果の概要

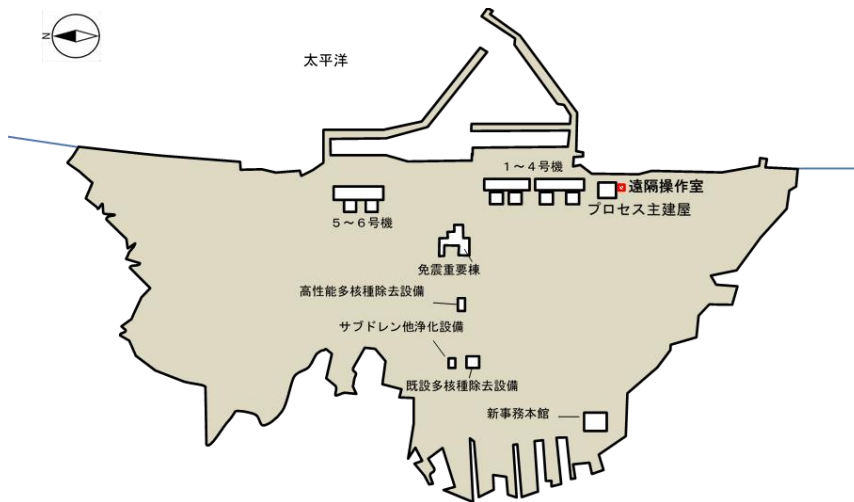
プロセス主建屋（以下「PMB」という。）の地下貯槽には、震災で発生した汚染水を除染装置^{*}で処理した際に生じた高線量のスラッジ（除染装置スラッジ）が約37m³貯留されている。この除染装置スラッジは、PMBに津波が到来した場合に漏えいするリスクがあることから、回収して高台に移送する計画がある。

また、PMBに設置されている除染装置タンク内に高濃度スラッジが保管されており、周囲が高線量となっている。作業環境の線量低減のため、除染装置タンク内のスラッジを回収し、地下貯槽に移送する作業が進められている。

この移送作業を進めていたところ、令和4年の8月に除染装置タンクから漏えいが発生したことが判明し、作業を中断しタンク周辺に堰を設置するなど対策を施し、今年4月に作業を再開したことから、状況を確認した。（図1）

- ・ PMB南側の遠隔操作室から、除染装置タンク内部やタンク周辺の状況を監視カメラの映像で確認しながら、タンクにろ過水を入れて攪拌し、タンクに入れたホースからスラッジを回収する作業が行われていた。（写真1）（写真2）
- ・ 作業は遠隔で行われ、屋外のろ過水ポンプ操作者及び回収ポンプ操作者と遠隔操作室内の指示者が連絡を取りながら作業を行っていた。

^{*}汚染水を処理するため、震災直後に導入され、2011年6月～9月に稼働していた装置。汚染水に薬剤を入れて放射性物質を沈殿させることで処理する。放射性スラッジ（汚泥）が発生するため、現在は使用されていない。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
遠隔操作室での監視状況



(写真2)
除染装置タンク内部の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。